

晩近我國の出生率及死亡率の推移

(人口千に付)

年次	出生率	死亡率	自然増加
大正九年	三三六	二二五	一一〇
大正十年	三三三	二二二	一一一
大正十一年	三三三	二二二	一一一
大正十二年	三三三	二二二	一一一
大正十三年	三三三	二二二	一一一
大正十四年	三三三	二二二	一一一
昭和元年	三三三	二二二	一一一
昭和二年	三三三	二二二	一一一
昭和三年	三三三	二二二	一一一
昭和四年	三三三	二二二	一一一
昭和五年	三三三	二二二	一一一
昭和六年	三三三	二二二	一一一
昭和七年	三三三	二二二	一一一
昭和八年	三三三	二二二	一一一
昭和九年	三三三	二二二	一一一
昭和十年	三三三	二二二	一一一
昭和十一年	三三三	二二二	一一一
昭和十二年	三三三	二二二	一一一
昭和十三年	三三三	二二二	一一一
昭和十四年	三三三	二二二	一一一

十一年	三一〇	一一七	一一二
十年	三一〇	一一七	一一二
九年	三一〇	一一七	一一二
八年	三一〇	一一七	一一二
七年	三一〇	一一七	一一二
六年	三一〇	一一七	一一二
五年	三一〇	一一七	一一二
四年	三一〇	一一七	一一二
三年	三一〇	一一七	一一二
二年	三一〇	一一七	一一二
元年	三一〇	一一七	一一二
昭和十一年	三一〇	一一七	一一二
昭和十二年	三一〇	一一七	一一二
昭和十三年	三一〇	一一七	一一二
昭和十四年	三一〇	一一七	一一二

右の表に依つて明かなやうに、近時に於ける我が國の出生率は年々低下の途を辿つてゐる。他方幸にして死亡率の方も低下してゐるため、その差である自然増加は著しい變化を示してゐないのであるが、凡そ死亡率の減少といふものは如何に衛生施設が完備してもある限度に至れば停止するものである。然るに出生率の減少は一旦始まると止まる處を知らず、遂には人口増加の停止又は減少をさへ見るに至るのである。

昭和五年から同十年迄の五ヶ年間に於て本縣の人口増加は一ヶ年平均千人に付僅に五人であつて、例へ出稼の相當數が有つたにせよ此の期間では各定縣中人口の増加した事では第一の貧弱數であつたのみならず、男よりも女の方が多くなりつゝあることは特に縣民の熟考を要し爲政者の切實なる方策を施さねばならぬ重大事である。

例へば彼のローマの如き、帝政時代には中部以西のヨーロッパ北部、アフリカ及び西部アジアを席捲し、地中海を自己の園池としてその偉大を世界に誇つたのであつたが、ローマの衰亡は既にその時急速に進んでゐたのである。即ち當時に於けるローマの上層社會出生率は甚しく減少し、大ローマ帝國の人口は主として下層民即ち奴隸によつて補充せられてゐたのである。

かゝる現象は又現在ヨーロッパ諸國が深刻に悩んでゐる問題であつて、わけてもフランスなどは今や人口減少の危険に瀕して國家の苦悶の種となつてゐるのである。これ等の事象に鑑みるも我が國に於ける出生率減少の傾向は國民の齊しく注意を要する重要問題である。

然らばこの出生率の減少は大体何に基因してゐるかといふと、

第一の原因は「晩婚」である。近來に於ける

我が國の結婚年齢は著しく遅延する傾向であつて、女子で二十四五歳、男子の三十歳前後が普通であるかの風潮にある。女子の最も出産能力の高い年齢は二十歳が頂上であると云はれてゐる點から考へて、確に近來の晩婚の風が我が國出生率減少の基因であると云はねばなるまい。

階級・別出生速度の比較

階級	同棲期間		農山村 (石川縣)	純農村 (富山縣)	教員 (千葉)	女子大 卒業生	銀行員
	産	兒數					
〇—五年	〇—	〇—	〇、五〇人	〇、五六人	〇、四九人	—人	〇、五五人
一—一〇	一—	一—	二、一四	一、九六	一、七七	二、〇二	一、七六
一—一五	一—	一—	三、五五	三、四八	二、八三	二、七四	二、五六
一—二〇	一—	一—	四、六三	四、五一	三、五三	三、六一	三、三四
二—二五	二—	二—	五、三二	四、七七	四、〇六	四、〇六	三、五一
二—三〇	二—	二—	五、五二	五、八三	—	—	—

かくの如き傾向が將來尙連續し且つその傾向を助長して行くに於ては、我が國將來の發展に實に

憂慮すべきものがある。滿洲國を始め大陸の開発は一つに我が日本民族の力に俟たねばならぬのであつて、日本民族の大陸進出こそ實に東亞新秩序建設の最大原動力でなくてはならぬ今後の日本として、我が國の人口問題は實に日本國民全部の上に課せられた重大問題であつて、今にして我々は深き關心を以て充分に考慮を要する次第である。萬全の策を施すにあらざれば我が國の前途や實に憂慮に堪へざる惧るべき大暗礁が横はるものと云ふ可きではあるまいか。



傷痍軍人臺帳の整備

今次勃發せる支那事變が單的な事變にあらず我が肇國の大業たる興亞の新秩序建設延ては世界人類の福祉を増進し眞の平和を企圖せんとするものであつて、これが爲に我國が凡ゆる犠牲

を拂つてその目的達成に邁進しつゝあることは今更云ふまでもない處であるが、この聖戰目的の爲第一線に活躍せられてゐる將兵に對しては官民悉く滿腔の感謝を捧げてゐることは、その出征や歸還に當つても實に壯なる歡送迎によつても、又陸海軍への献金、現地への心盡しの慰問袋によつても、よくこれを窺ひ得られるのである。

併しなほ一入心を打たれるのは實に名譽ある無言の凱旋勇士及其の遺族並に白衣の勇士を、銃後國民が目撃し誰一人として心を打たれざる者はないのである。之等の勇士は實に尊い犠牲となり、將亦傷痍、疾病の不自由の身となつて一家の柱石を失ひ或はその活動力を喪失せるものに對し感謝の至情を致さなければならぬことは申すまでもないのである。

この戦歿軍人の遺族及傷痍軍人の保護優遇については、國家は勿論總ての團體に於ても亦個人的にも同胞愛の精神よりして、格段の優遇、保護及援護の途が講せられつゝあるのであるが

今回市町村に傷痍軍人台帳を整備することゝなつて一層傷痍軍人の保護に遺憾なきを期し、常に之等傷痍軍人の情状を審にして保護の徹底を期することゝなつた。今左にその台帳作製上の留意事項を記し参考に資することゝす。

☆ ☆

- 一 傷痍軍人台帳は十一月七日以後施行の健康診断については、台帳欄外〇印を對象とするものなること。
- 二 傷痍軍人台帳は表紙を附し一定の場所に納め置き、症状等差記入しあるにつき特に秘扱をなし他に漏すべからず。
- 三 縣が此の度市町村に配付せる分は今次事變による傷痍軍人を主としたるも、今次事變までの者及今後の分は逐次作成送付の豫定なること。
- 四 傷痍軍人(戦闘又は公務により傷痍、疾病を受けこれが爲恩給を受給せられ又は受給せらるゝ見込確實なるもの)は台帳番號欄

に甲と記入すること。

五 傷痍軍人には非らざるも服務に關聯し傷痍疾病を受け、これが爲除役若しくは召集解除せられたるものを傷痍軍人に準じ醫療保護等の對象とするを以て、本台帳に乙として登載するものとす。

六 右甲、乙は混同せざる様取扱ふこと

七 本台帳に登載すべきものと認めらるゝも登載漏と認めらるゝものについては、市町村長に於て事情を具し調査方通報のこと。

八 台帳備付後市町村長に於て判明したる事項につきては適當欄に適宜記入すること。



市町村統計主任會議

並縣統計協會總會開催



本年十二月を期して資源調査法による一回

商業調査及工業調査が行はれることになつて、これに關して去る十月十二日仁風閣で中國各縣商工調査事務打合會が開かれたことは既に記したが、今回これが實施上の指示及打合をなすと共に、其の他各般統計事務に關して市町村統計主任者を招集することゝなり、十一月九、十兩日東伯郡倉吉町有親館に於て右主任會議が開催された。

當日知事よりは、複雑微妙なる國際狀勢下に於て政府は國家總動員法の全面的發動をなすと共に一面之が基本資料の整備を急ぎ、曩に商店と物の臨時國勢調査、續いて第六回勞働統計實地調査を行つたのであるが、今回更に資源調査法に基く本調査規則の制定公布となつたものであつて、資源調査體系中極めて重要な恒常的調査であり、従つてこの統計の正否は直に時局對策の當否に影響して、其の及す所は實に國運の隆替に關する重要事務であるから、統計主任者はこの調査の直接責任者として充分の自信と矜持とを以て大局を査察し、調査の萬全を期し

て正確なる資料を提供し、統計報國の誠を致すべき旨訓示せられ、續いて指示、注意が行はれてこれが協議を行つたのであつた。

尙主任會議に引續き鳥取縣統計協會總會を開催し、會務報告をなすと共に多年統計事務に従事した統計功勞者を表彰せられたが、當日この榮譽を擔つた諸氏は次の十一名であつた。

- | | |
|-------------|-------|
| 西伯郡大幡村書記 | 野坂繁三 |
| 岩美郡東村書記 | 湯本常藏 |
| 東伯郡橋津村書記 | 西方正則 |
| 氣高郡吉岡村助役 | 藤田直吉 |
| 日野郡二部村書記 | 樋口金重 |
| 東伯郡下郷村書記 | 倉光利一 |
| 八頭郡船岡村書記 | 藤田良雄 |
| 同用ヶ瀬町収入役 | 島村峰治 |
| 西伯郡大山村統計調査員 | |
| 勳八等 | 野口榮太郎 |
| 日野郡米澤村統計調査員 | |
| | 下尾廣太 |

